

第1回山岳大気シンポジウム



今年4月、東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門 (Mountain Atmosphere Research Division, MARD) が発足しました。MARD は主に山岳地域における観測により、気候変動、越境大気汚染、放射線被曝に関する研究を行っている研究者の集まりです。本シンポジウムではMARDの発足を記念して、MARDの紹介とメンバーの研究紹介を行いますので、ぜひ、ご参加ください。

日時 2011年6月11日(土) 13:00-17:45

場所 神楽坂ポルタ7階第3会議室 <http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

- | | | |
|-------------|-----------------------------------|-------------------------------|
| 13:00-13:05 | 山岳大気研究部門の紹介 | 三浦 和彦 (部門長、東京理科大学理学部准教授) |
| 13:05-13:20 | 上空の放射線を富士山頂で見張る | 保田 浩志 (放射線医学総合研究所チームリーダー) |
| 13:20-13:35 | 地表からのラドン散逸について | 児島 紘 (東京理科大学工学部教授) |
| 13:35-13:50 | 日本の自由対流圏におけるラドンの起源 | 永野 勝裕 (東京理科大学工学部講師) |
| 13:50-14:05 | 富士山頂での一酸化炭素およびオゾンの測定 | 加藤 俊吾 (首都大学東京都市環境学部准教授) |
| 14:05-14:20 | 富士山におけるオゾン濃度の鉛直分布と季節変化 | 藤田 慎一 (電力中央研究所研究顧問) |
| 14:20-14:35 | 初冬期のつくばにおける粒子状物質の鉛直分布 | 速水 洋 (電力中央研究所環境科学研究所上席研究員) |
| 14:35-14:50 | エアロゾルの新粒子生成、成長と雲凝結核に関する研究 | 三浦 和彦 (東京理科大学理学部准教授) |
| 14:50-15:05 | 大気中スス含有粒子の形態と水溶性物質との混合状態 | 上田 紗也子 (東京理科大学理学部ポストドクトラル研究員) |
| 15:05-15:20 | 休憩 | |
| 15:20-15:35 | 黄砂粒子に含まれる鉄成分の溶解性 | 緒方 裕子 (早稲田大学創造理工学部助教) |
| 15:35-15:50 | 富士山頂での黄砂観測 | 小林 拓 (山梨大学大学院医学工学総合研究部准教授) |
| 15:50-16:05 | 気象研究所での山岳を利用した大気エアロゾル研究の紹介 | 五十嵐 康人 (気象研究所環境・応用気象研究部室長) |
| 16:05-16:20 | 立山でのエアロゾルモニタリングと、標高差を用いた沈着過程の研究 | 長田 和雄 (名古屋大学大学院環境科学研究科准教授) |
| 16:20-16:35 | 太陽放射観測と積雪断面調査から観る立山の山岳大気研究 | 青木 一真 (富山大学大学院理工学研究部准教授) |
| 16:35-16:50 | 能登半島の山で大気を見る | 皆巳 幸也 (石川県立大学生物資源環境学部准教授) |
| 16:50-17:05 | He-MIP-AES、XRF による昭和基地大気中の粒子状物質分析 | 浅野 比 (山口東京理科大学工学部助教) |
| 17:05-17:15 | コメント「電子顕微鏡でできること」 | 加藤 大樹 (東京理科大学理学部助教) |
| 17:15-17:45 | 総合討論 | |

○ 参加ご希望の方は6月9日(木)までにご連絡下さい。連絡先：三浦和彦 miura@rs.kagu.tus.ac.jp